

校長室だより～和光高校今昔 第47号 H27.3.27

埼玉県立和光高等学校 校長 村田 進

卒業の歌

平成27年3月13日に举行された第41回卒業証書授与式では、『旅立ちの日に』を式歌として全校生徒が唄った。この歌がいわゆる卒業ソングとして定着したのは平成10年ころからで、作られてから7年が経っていた。すっかり有名になっているが、秩父市立影森中学校の音楽教師であった坂本浩美先生が、当時の校長であった小嶋登先生に作詞を依頼し平成3年の同校卒業を祝う会に向け制作された曲である。秩父連峰を仰ぐのどかな景観の中、飛翔をテーマとする期待と応援が散りばめられた歌詞と生徒を慈しむ情感に溢れたメロディは、瞬間に埼玉から全国に広がり小中高を問わず最も親しまれている「卒業式の歌」として定着した。



白い光りの中に 山なみは萌えて 遥かな空の果てまでも 君は飛び立つ
限りなく青い空に 心ふるわせ 自由を駆ける鳥よ ふり返ることもせず
勇気を翼にこめて 希望の風にのり このひろい大空に 夢をたくして

懐かしい友の声 ふとよみがえる 意味もないさかいに 泣いたあのとき
心かよったうれしさに 抱き合った日よ みんなすぎたけれど 思いで強く抱いて
勇気を翼に込めて 希望の風にのり このひろい大空に 夢をたくして

いま 別れのとき 飛び立とう 未来信じて 弾む若い力信じて
このひろい このひろい 大空に

いま 別れのとき 飛び立とう 未来信じて 弾む若い力
信じて
このひろい このひろい 大空に(旧:青空に)





和光高校では開校以来ずっと『蛍の光』が歌われ続けてきた。担任として『仰げば尊し』はその歌詞から「そんなに大したことしてないよ」と何となく面映ゆい気がするが、『蛍の光』は歌いながら生徒達と共に過ごしてきた年月を振り返ることが出来て、たまに「ムカつく」ことを思い出したとしてもやっぱり泣けてくるのである。ただ文語調の歌詞は若い生徒達には解り辛く、少し前に若い生徒であった若い先生方にとっても馴染みに

くくなってきたようである。なので昨年から式歌として『旅立ちの日に』が採用されたのである。ほとんどの生徒が小中学校でも歌っており、特別な練習をせずとも素晴らしいハーモニーとなるのである。それにしても中学校の卒業式は素晴らしい。整然厳守な一人一人への証書授与、まるでミュージカルを見るような何曲もの合唱などまさに「晴れ姿」の披露となる。先生方のご指導には本当に感服している。

「晴れ晴れ爽やか」が和光高校の卒業式のテーマだと思っている。みんないい顔をしている。この日を迎えるまでの困難の道のりは生徒自身・ご家族・担任団のみが知るところである。乗り越えてきたものが大きいほどその成就感も大きいのだろう。和やかな光に包まれて立派な卒業式を行うことが出来たのは三者の努力が結実したことの賜物だろう。和光高校第41回卒業生174名の夢が花開き未来に羽ばたくことを祈っている。



卒業おめでとう